

令和6年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進会議(報告)

実施日 令和6年5月17日(金)13時30分～15時00分

場 所 交流棟2階 交流ホール

(大和郡山市医師会)西崎和彦、松岡弘樹
(大和郡山市歯科医師会)胡内昌久、福辻智
(大和郡山市薬剤師会)仲谷尚起
(大和郡山市訪問看護事業者連絡会)有吉菜美
(大和郡山市リハビリテーション連絡協議会)吉田信也、鈴木達也
参 加 者 (大和郡山市居宅介護支援事業所連絡会)白戸玲人、前川益己、川村香代
(大和郡山市地域医療連携担当者連絡会)田中清恵
(大和郡山市地域包括支援センター)駒谷功、中村奈名子、田中杏奈、永野智也、
大森尚美、楠本正蔵
(大和郡山市保健センター)岡田実
(奈良県郡山保健所健康増進課)井伊貴子

事 務 局 (大和郡山市福祉部)細田朋洋
(大和郡山市地域包括ケア推進課)植田浩之、近藤豊、本間亜矢、井戸大夢

(敬称略)

1. あいさつ

○大和郡山市福祉部 細田朋洋

本日はお忙しい中、本会にご出席いただき、ありがとうございます。

また、地域包括ケアシステムの構築に及び、在宅医療介護連携推進事業にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年度は、看取りの支援に関する市民への啓発シンポジウムの開催、エンディングノートであるわたしノートの改定、ひとり暮らし高齢者等の緊急連絡先等の共有に関する緊とつとボトルの作成についてこの会議での議論を踏まえて取り組みを進めて参りました。これらの取り組みは市民の方々から大変好評いただいております、在宅医療介護連携の推進に貢献したと考えております。

本日の会議におきましては、昨年の取り組みの成果を踏まえ、本年度の重点施策について事務局から詳しいご説明をさせていただきますので、活発なご議論ご意見をいただきますようお願いいたします。

○参加者自己紹介

2. 令和5年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進事業の取組み

令和5年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進関連会議の実施状況

○大和郡山市地域包括ケア推進課 本間亜矢

①令和5年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進計画(報告)

◎在宅医療・介護連携推進会議①:令和5年4月24日開催

- ・令和4年度在宅医療・介護連携推進事業、大和郡山市在宅医療介護支援センターの取組み報告
- ・令和5年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進事業計画

◎在宅医療・介護連携推進会議②:令和5年10月6日開催

- ・令和5年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進事業の取り組み
- ・在宅医療・介護連携推進事業の評価(第8期介護保険事業計画)と課題(第9期計画)

◎作業部会 A「顔の見える関係づくり」

下記研修会等の情報提供。

- ・R5.7「アルコール問題を抱える当事者やその家族の生きづらさの理解」
- ・R5.11～12「多職種連携のための事例検討会」
- ・R5.12「ケアマネジャーの離職を防止するためハラスメントやその対応等について学ぶ」
- ・R6.2「在宅医療・救急医療等の連携にかかるオンラインセミナー(厚労省)」

◎作業部会 B「情報連携」:令和5年6月5日開催

- ・第9期介護保険事業計画介護予防・日常生活圏域二ーズ調査結果報告
- ・令和5年度在宅医療・介護関係者の連携に関する調査の項目の検討

◎作業部会 C「在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携」:令和6年1月29日

- ・在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携実態調査報告(情報連携ツール・入退院調整などの現状について)
- ・GW「在宅医療・介護連携推進のために取り組むこと」

◎作業部会 D「認知症高齢者等への支援」:令和5年8月17日

- ・9期介護保険事業計画介護予防・日常生活圏域二ーズ調査結果報告(認知症)
- ・認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援、若年性認知症の支援

◎作業部会 E「看取りの支援」:令和5年7月10日

- ・9期介護保険事業計画介護予防・日常生活圏域二ーズ調査結果報告(ACP)
- ・わたしノート改訂、もしバナゲーム、ACP劇とシンポジウムについて

◎作業部会 E「わたしノート改訂合同会議」:令和5年9月8日

- ・「わたしノート」全面改訂のための検討を行ってた会議体(在宅医療・介護連携会議・認

知症高齢者等の見守り連絡会)の代表者が看取りや権利擁護支援の現状に対応した市民に分かりやすい「わたしノート」の完成を目指す。

◎作業部会 F「一人暮らし高齢者等の緊急連絡先等の共有に関する情報交換会」：令和5年6月12日
・医療・介護・福祉・救急・警察・行政などの関係者が、緊急連絡カード配付事業(社協)について、情報更新を含む運用の見直しや事業周知などの課題を検討。(令和 5 年 12 月より緊とっとボトルの運用開始)

◎医療と介護の相談窓口担当者連絡会：令和6年 2 月16日
・在宅医療介護支援センターと地域包括支援センターによる情報交換会

＊部会 C「在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携」グループワーク参加者報告

○大和郡山市リハビリテーション連絡協議会 鈴木 達也

- ・市内の病院に関しては、情報提供、連携共に概ね取れている。しかし、市外病院では入退院のルールを熟知しているところはあまり多くなさそう。他市町村ではどのような連携体制になっているか様子を見たい。
- ・どこに電話をすれば良いか分からないことが多いため、連携先の電話番号の一覧表があれば便利になる。
- ・連携室に FAX をするものの、届いていないといったことがまれにある。ご家族からの連絡も届きにくい。
- ・病院によって退院にするまでにあたっての重視しているものが違う。病の治療が目的なのか、日常生活に戻すことが目的なのかの 2 つあると考えられる。それによって治療の方針や医師の考え方が異なる。
- ・コロナで面会回数が少ないまたは出来なかったり、本人も家族も苦しい思いをしている。
- ・実際に直接認知症に関わっていないと認知症への理解を得られにくく、適切な支援に繋がりにくい状況。
- ・大和郡山病院でも認知症の方が非常に多く、対応に欠けているスタッフも一部存在し、うまくアプローチができず、お互いに苦しい思いをすることが実際にある。

○大和郡山市地域医療連携担当者連絡会 田中 清恵

- ・CM が利用者の救急車を呼んだ時に救急隊に同乗を求められることがある。日ごろの情報などは病院側に伝達できるが、手術の同意などはできない。ご家族には常日頃からすべて介護側に合わせるのではなく、有事の際は当事者で対処するものだとして理解を得られればと感じた。
- ・入退院連携マニュアルに伝達は 3 日以内と書いてあり、それを頑なに順守するあまり、柔軟な対応ができない病院や CM がいる。あくまで書類上の話なので調整をすることはできると思う。
- ・医師の中には入院して介護が必要になって家に帰れないイコール施設という認識の方がいて、介護サービスが充実していることを知っていただきたい。

○大和郡山市居宅介護支援事業所連絡会 白戸 玲人

- ・市内の病院と市内の事業所はかなり連携できているのではという意見があったが、市外になると連絡もなく退院されたり、連絡しても全然繋げてくれない、といったことがある。そのような状態であれば、他市町村はどう連携しているか情報収集し、調整したい。
- ・CM からの病院への情報連携だが、短期間に入退院を繰り返されてる人に関して、情報連携は一度でよいという意見もあったが、病院側としては部署が違ったり、前回のカルテを見れない都合あって、毎回提出してほしいという意見があった。
- ・緊急時の搬送の際に介護の方だけではなく、地域の民生委員の方や近隣の方から情報を聞いたり、手伝ってもらったりすることがある。そのためにも常日頃できるだけ情報共有できるよう連携を取っておくことべき。

○第四地域包括支援センター 楠本 正蔵

- ・認知症支援の仕組みの強化で、家族がいても認知症を隠していることがあるので、情報をいかに把握するかが重要。
- ・部会 C が開催された時期が能登地震が発生して間もないころの 1 月末だったので、防災の観点も絡めて検討していきたいという意見があった。
- ・業務上ACPには馴染みがあるが、やはり一般市民の方にはあまり広まっていないように感じる。例えばかかりつけの先生から、わたしノートのことを勧めてもらうと利用促進に繋がるのではという意見が出た。

3. 令和5年度大和郡山市在宅医療介護支援センターの取組み

○担当欠席のため、資料提供のみ

4. 令和6年度在宅医療・介護連携推進事業計画(第9期介護保険事業計画)

○地域包括ケア推進課 本間 亜矢

第9期介護保健事業計画が昨年度に策定され、令和 6 年度から 8 年度にかけて取り組んでいく。

計画の基本目標2に「在宅医療介護連携の強化」があり、前回の計画から引き続き、大きな柱の一つとして掲載をしている。

医療と介護の複合的なニーズを持つ高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい生活を送れるよう、この会議を中心に、日常療養、入退院、看取り、急変時の 4 場面に応じた、医療や介護の専門職、関係機関の多職種連携を行い、一体的に提供できる体制の構築強化、市民の在宅医療への意識づくりに取り組んでいく。



場面	会議名・日程	内容
全体	在宅医療・介護連携推進会議 令和6年 5 月 17 日	・第9期介護保険事業計画に基づき、事業全体の方向性の検討や進捗管理を行う。 ・場面に応じた具体的な取組みの検討は以下のとおり作業部会で行う。
(1) 入退院	作業部会 C 在宅医療・介護関係者と病院 関係者の連携 令和7年 1 月	・在宅医療・介護と病院関係者が一堂に会し、連携の現状確認及び医療介護連携に係る情報周知の機会として年間1回程度開催 ・8月に CM を対象とした入退院連携の実態調査
(2) 日常 療養	作業部会 D 認知症高齢者等への支援 令和6年8月2日	・当事者視点の認知症支援について考える 例)認知症世界の歩き方、VR 研修の紹介(ハートランドしぎさん) ・認知症予防ガイドブックの利活用について
(3) 看取り	作業部会 E 看取りの支援 令和6年7月17日	・在宅で医療と介護を受けながら暮らすイメージを市民が持てるような情報提供について検討 ・R5に作成した「わたしノート」の活用推進 ・看取りの支援で連携する時の課題と取組みの検討
(4) 急変時	作業部会 F 一人暮らし高齢者等の緊急連絡先に関する検討会 令和 6 年6月12日	・R5 に緊とっとボトルの運用が始まったので、利活用の推進 ・急変時の対応で医療と介護の関係者が必要とする情報について 例)医師の指示、薬剤情報等の共有の実際
(5) その他	作業部会 A 顔の見える関係づくり	・多職種連携、在宅医療・介護連携に資する研修等の情報集約 ・関係機関への周知 ・多職種連携、新たな課題に対応した研修開催
	作業部会 B 情報連携	・在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携マニュアルについて平成 31 年に冊子の部分改訂、令和 2 年度に連携シート、令和 4 年度に入院時・退院時事情報に関する様式を改訂 ・マニュアル作成の過程を知らない職員が増加していることが課題 ・情報連携に関すること
	医療と介護の相談窓口担当者 連絡会 令和7年2月	・医療と介護の相談窓口である地域包括支援センターと在宅医療介護支援センターに寄せられる相談対応の振り返りと課題の共有 ・今後の取組みについて検討。

5. 口腔ケアについて

○奈良県郡山保健所 歯科衛生士 井伊 貴子

令和 5 年度より郡山保健所では、在宅医療推進事業の一環として、利用者の口腔の異常について、適切な在宅歯科医療につないでもらうため、在宅歯科医療口腔保健推進事業に取り組んでおり、昨年度に地域包括支援センターへアンケート調査を行った。その結果、「口腔内を観察するためのツールがない」、「他の困りごとについて相談を受けることはあるが、それを歯科医師に訪問歯科診療として依頼して連携するツールがない」ということが判明した。

県では、口腔内を観察し、在宅医療の現場と訪問歯科診療をつなぐ連携ツールの作成に取り組んでおり、奈良県歯科医師会の協力を得て、令和5年12月に在宅歯科口腔保険ツールパックが完成したので、この場を借りて紹介させていただく。

このツールパックを使ってもらい、在宅療養者や入所者の口腔を確認し、適切な歯科医療につないでいただきたい。

郡山保健所では中和保健所と共同で西和7町におけるメディケアフォーラムで口腔衛生摂食嚥下部会を立ち上げた。この部会でツールパックをモデル地域として活用していく予定。

また、今年度に郡山保健所でも奈良県在宅歯科口腔保健ツールパックに関する研修会の開催を予定している。詳細が決まり次第、大和郡山市を通じて皆様に案内させてもらう。

○大和郡山市地域包括ケア推進課 本間 亜矢

令和6年3月15日付の介護保険最新情報に、口腔ケアについて記載されており、口腔連携加算が新設され、それに関する基本的な考え方並びに事務処理手順規定及び様式について記載されている。先ほどのツールパックとはまた違うものの、内容としては、利用者の口腔ケアをすることで、栄養状態の改善等の効果が期待されている。

これについて、こういった取り組みが必要か、皆様の意見を伺いたいという声があったので、背景や現状を教えていただきたい。

○大和郡山市リハビリテーション連絡協議会 吉田 信也

介護報酬の4月改定時に口腔連携強化加算が訪問介護から始まって、6月改定から訪問介護と訪問看護、訪問リハでも加算を取得できるような形になる。

加算の目的は口腔機能のアップや誤嚥性肺炎の予防であるが、一番のメインは歯科医師との医療連携の推進。訪問歯科診療を行っている歯科との連携をしていかないと、加算を取得したような状態を評価しても進めていけないところがある。1つの事業所が情報提供の相談も含めてどのように連携をとるか、大和郡山市として検討していく必要がある。

かかりつけの歯科ではなく、普段診てもらっていない先生と連携をとる可能性がある。これからどうしていけばよいか、事業の中での実際の取り組みについてききたい。

○大和郡山市医師会 西崎 和彦

介護で口腔の算定ができるようになり、このような加算を取っていないと、報酬も改訂されたこともあり、事業所の経営が難しい状況になってきている。口腔連携強化加算は当然利用者の方のためでもあるし、実際に訪問診療してる先生によると、口腔ケアを実施すれば誤嚥性肺炎が激減するらしく、非常に重要。

しかしながら、歯科の先生方は普段の診療に忙しいうえに、お金が入らないようなことに協力できる人は少ないが、訪問診療が加わるのであれば話が変わってくる。連携を取れる仕組みをまず作らないといけない、連携が全くできてない状態から、これをやりましょうって言われても、少し難しいと感じる。訪問診療は医師、歯科医師に相当な負担がかかるので、訪問をメインでやってる先生もいると思うので、その辺の情報を、介護の方にも行き渡る仕組みづくりがいる。

本来あるべき姿として、訪問診療専門の歯科ではなく、かかりつけの歯科医院と連絡を密にとり、訪問診療してくれる先生を確保する。在宅患者の口腔ケアと、連携をどうするか市でも議論が必要。そこではじめに、環境づくりからしていく必要がある。ツールパックのおかげで介護側はなんとかなる。あとは歯科医師側とどういう形で連携をとるか検討していきたい。

○大和郡山市歯科医師会 胡内 昌久

口腔の健康状態の評価はツールパックの写真で確認しながら実施すればよいのでそこまで難しくはないかと考えられる。評価内容を歯科医院と CM で情報共有することが重要で、現在訪問歯科診療を実施しているのが 2 割ぐらいしかいない。この加算を算定できる歯科医院の基準が、歯科訪問診療料を算定している歯科医院に限られることもあり、新たに探し出すのは困難だと思う。郡山で今現在訪問診療している歯科医院を調べたいと考えている。

○大和郡山市歯科医師会 福辻 智

訪問診療は片手間で行うと思ってできるものではなく、往診までは手が回らないのが現状。郡山の駅前では他府県の歯医者さんが事業所をやっている話を聞いた。本来はこの地域の歯科医師会やその近隣で在宅の患者を診ていければいいと思う。まずはじめに取り組まれている先生のご協力を得られるようにしていく必要がある。

○大和郡山市医師会 西崎 和彦

訪問歯科をされている歯科医院のリストを作成すると名前が一番上に掲載されている医院がひっ迫することが考えられる。医療介護支援センターに一般に公開しない決まりでリストを提供して、そちらに連絡してもらって提携することができればと思う。

6. その他

○地域包括ケア推進課 井戸 大夢

入院時連携加算についての情報共有、入退院連携に関する調査の実施のお知らせ、大和郡山市在宅医療・介護連携推進関係機関名簿の更新の情報提供。

7. 総括

○大和郡山市医師会 西崎 和彦

皆様お疲れさまでした。

口腔ケアの話は私が知り合いの先生から、定期的に歯科衛生士が訪問するだけで一気に誤嚥性肺炎が減るという話を聞いたところからスタートした。今年は歯科医に負担をかけてしまうが、口腔ケアについて連携を深められる下地づくりから行い、大和郡山市が先進的だと周りから思われるようにしていきたい。